■令和4年度 群馬県立図書館サービスに対する評価結果について

公立図書館は、その目的と社会的使命を達成するため、時代の変化や要請に対応しながら、図書館利用者に質の高いサービスを提供していくことが求められています。

このことを実現するため、群馬県立図書館では、当館が目標としている主要なサービスについて、平成24年度から評価指標及び数値目標を設定し、その達成に向けて取り組んできました。

令和4年度の目標値に対する取り組み結果は次のとおりです。

目 標	評 価 指 標	実 績		評 価
		(目標値)	達成率	
①読書活動の推進	自館図書資料貸出冊数	207,894 (224,500冊)	92.6%	A
	ビブリオバトル参加者数	70 (70人)	100.0%	A
②高度な専門的情報サービスの提供	調査相談件数	5,024 (5,200件)	96.6%	A
	購入資料に占める高度専門的資料の割合(見直し)	31.7% (38%)	83.4%	B
③図書館ネットワークの充実強化	県域相互貸借点数	29,452 (31,000点)	95.0%	A
	横断検索システムの検案件数	292,957 (318,500件)	92.0%	A
④県内図書館等に対する支援の充実	図書館等職員研修参加人数	261 (255人)	102.4%	A
	協カレファレンス件数	36 (59件)	61.0%	C
	学習支援図書貸出冊数	5,113 (6,500冊)	78.7%	B
⑤群馬県に関する資料・情報の網羅的収集と保存	郷土資料受入冊数	2,273 (2,300冊)	98.8%	A
	デジタルライブラリーへのアクセス件数	30,318 (25,000件)	121.3%	A
⑥情報発信の充実等	ホームページアクセス件数	926,593 (767,000回)	120.8%	A
	メディア掲載等件数	20 (34件)	58.8%	C

○基本指標

基本指標は、直接的な目標数値は設定しませんが、図書館が取り組む読書活動推進の結果の指標とするものです。目標を「県域の読書活動の推進」とし、最も重要な基本指標を設定しました。

目 標	基 本 指 標	直近の実績値比較(R4年度/R3年度)	
県域の読書活動の推進	県域公共図書館等の資料貸出数(*) / 県人口100人当たり	489 / 496 (点)	98.6%
	(参考値) 県立図書館の状況		
	・入館者数	153,876 / 128,039(人)	120.2%
	・図書資料個人貸出点数	245,033 / 263,547(冊)	93.0%
	・貸出点数 / 人口1万人当たり	1,490 / 1,376(点)	108.3%

(*)議会図書館・点字図書館を含む

○評価基準

評 価	評 価 内 容	評 価 の 目 安
A	数値目標をほぼ達成し、期待する成果があった。	90%以上
B	数値目標まで達成していないが、一定の成果があった。	70%以上90%未満
C	数値目標が達成できず、成果が不十分であった。	70%未満

1. 読書活動の推進

①自館図書資料貸出冊数

(来館+他館への相互貸借)

指標の説明	1階中央図書室・子供読書相談室の図書資料及び、相互貸借（団体貸出を含む）による図書資料の貸出冊数を指標とする。			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	224,500	207,894	92.6%	A
目標値設定の考え方	<p>令和3年度の中央図書室・子ども読書相談室で213,217冊、相互貸借で11,230冊、計224,447冊の貸出があった。</p> <p>令和4年度はコロナ禍による長期閉館がない場合、年間開館日は286日で令和3年度と同日数となる見込みであることから</p> <p>224,447冊(R3年度) ⇒ 224,500冊（百冊未満切上げ）を目標値とする。</p>			
評価分析	<p>令和4年度の中央図書室・子ども読書相談室図書資料で197,800冊、相互貸借で10,094冊、計207,894冊の貸出があった。</p> <p>貸出数の対前年比では、中央図書室・子ども読書相談室で92.8%、相互貸借で89.9%とそれぞれ減少に転じた。貸出数が減少した要因としては、夏から冬にかけて新型コロナウイルス感染者数が増加し、利用者数が減少したことが考えられる。相互貸借による図書資料の貸出は、県内図書館(室)に対して相互貸借の制度利用をアピールすることがより重要と考える。</p>			

②ビブリオバトル参加者数

指標の説明	ビブリオバトル大会の参加状況は、高校生や県民の読書活動推進の目安となるため、ビブリオバトル大会参加者数を指標として設定する。			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	70	70	100.0%	A
目標値設定の考え方	<p>令和4年度は募集定員の100%を目標値とする。募集定員は、群馬県のイベント実施ガイドラインにより、会場収容人数200人の半数以内とする。</p> <p>(募集定員) 発表者(20人)+観戦者(40人)+ボランティア(10人)=合計70人</p>			
評価分析	<p>ビブリオバトルは令和4年11月6日に県立図書館ホールおよび前橋商工会議所を使用して実施した。想定した募集定員と同数の者に参加いただき、熱のこもった大会となった。コロナウイルス感染防止の観点から1発表者あたり2名を上限とした付き添いを認めた。</p>			

2. 高度な専門的情報サービスの提供

①調査相談件数

指標の説明	調査相談機能の強化とさらなる充実を目指すため、県立図書館の重要な業務の一つであるレファレンスサービスのうち、利用相談（書架案内や所蔵調査）を除く調査相談（事柄や事実調査、文献調査などの専門的情報提供サービス）の件数を指標として設定する。			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	5,200	5,024	96.6%	A
目標値設定の考え方	この指標は主に調査相談室等のカウンターで対応した調査相談件数に関する数値であり、開館時間の増減の影響を受ける。 今年度は5月最終週より通常開館しているが、まだ感染症の影響や今後の警戒レベル等不透明な要素がある。令和3年度に達成できなかった目標値と同件数を今年度の目標とする。			
評価分析	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度を上回る実績値となった。（R3年度：4856件） ・コロナ禍以前の利用者が徐々に戻りつつあると感じる一方、新型コロナウイルス感染症対応のために利用制限をかけた影響やインターネットを利用した様々なサービスが充実してきている社会の変化もあり、年々サービス利用者は減少傾向にあると感じる。 ・SNSを活用して、調査相談室やレファレンスサービスの周知を図っているところであるが、引き続き取り組んでいく。 			

②購入資料に占める高度専門的資料の割合（見直し）

指標の説明	県立図書館の役割として高度な専門的情報サービスを提供するため、調査研究のための専門資料、レファレンス資料、群馬県関係資料などの専門的資料を継続的に収集していく必要がある。さらに、市町村立図書館の購入する図書資料との棲み分けの明確化も求められている。専門的資料は、ページ(文字数)、索引の充実など製作コストがかかる一方で、多部数販売を見込めないために一般的には高額になる傾向がある。この専門性と価格の相関に着目し、購入資料における高度専門的資料（3,500円以上）の冊数の割合を指標として設定する。			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	38%	31.7%	83.4%	B
目標値設定の考え方	令和3年度の受入資料平均単価の目標値3500円に着目し、3,500円以上の資料を高度専門的資料の目安とする。 購入資料における冊数の割合については、直近3年間の実績を参考に目標値とする。（参考実績 R1：20%、R2：25%、R3：33%） 〔見直し前の指標「受入資料の平均単価」令和3年度実績〕 3,886円（実績）／3,500円（目標） 達成率111.0%〕			
評価分析	調査研究のための専門資料、レファレンス資料、群馬県関係資料などに重点を置いた選書を行い、市町村立図書館との棲み分けに留意した。資料の購入を積み重ねていく中で、38%で運用した場合、難解な資料に偏りすぎる弊害が懸念された。目標値の設定において、蔵書の難易度等のバランスについて配慮が不足していた。			

3. 図書館ネットワークの充実強化

① 県域相互貸借点数（新規）

指標の説明	相互貸借システムの活用状況は、県民の読書推進を全県的に進めていくための目安となるため、県域の相互貸借点数を指標として設定する。			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	31,000	29,452	95.0%	A
目標値設定の考え方	「県域相互貸借点数」は、令和3年度に新設した評価指標である。令和3年度に達成できなかった目標値と同点数を今年度の目標とする。			
評価分析	令和4年度は▲実績となった。新型コロナウイルスの5類移行を踏まえた上で、各市町村等へのPRと制度周知をさらに徹底し、利用者数を安定させたい。			

② 横断検索システムの検索件数

指標の説明	県立図書館の横断検索システムは、県内図書館の資料を一元的に検索できるシステムであり、その利用の多少が図書館利用の一つの目安となる。			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	318,500	292,957	92.0%	A
目標値設定の考え方	横断検索件数は、一般利用者への周知が図られ、平成29年度以降増加傾向にある。前年度比5%増（100件未満切上）を目標とする。			
評価分析	横断検索件数は平成29年度から令和3年度までの間、増加傾向にあったが、令和4年度は若干の減少となった。これは横断検索が広く周知され増加が頭打ちになったことに加え、システム更新で17日間横断検索が使用できない期間があったためと考えられる。			

4. 県内図書館等に対する支援の充実

①図書館等職員研修参加者数

指標の説明	県立図書館が開催する研修会の開催状況は、人材育成支援充実の目安となるため、特に、実務的な内容の「図書館(室)職員司書実務研修」と、学校図書館の活用促進を内容とする「学校図書館研修会」を取り上げ、二つの研修会の参加人数を指標として設定する。			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	255	261	102.4%	A
目標値設定の考え方	オンライン研修が定着したことから、物理的な制約を受けずに研修生を募集できるようになったことを踏まえ、令和4年度は「図書館(室)職員司書実務研修」で130名、学校図書館研修会で125名、合計255人を目標値とする。			
評価分析	<p>コロナウイルス感染防止としてオンラインでの研修開催となったが、このことにより会場の物理的制約がなくなり、特に「図書館(室)職員司書実務研修」では多くの参加者を集めることが可能となった。コロナウイルス感染症が5類に移行したことを踏まえ、今後はオンライン開催だけではなく対面開催も実施していくが、ハイブリットでの開催を基本としつつもそれぞれのメリット・デメリットを比較衡量し、研修の内容がより伝わる方法を検討していきたい。</p>			

②協力レファレンス件数

指標の説明	地域の情報拠点として、県内の公共図書館や学校・大学図書館で解決できないレファレンス事案について、高度な質問に対応できる専門性を備えた職員が所蔵するレファレンスツール（辞書・事典、各種データベース等）や専門的資料を活用して解決の支援を行う。			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	59	36	61.0%	C
目標値設定の考え方	<p>「協力レファレンス件数」は令和2年度から新設した評価指標である。令和3年度の目標値の合理性が薄かった反省を踏まえ、令和2年度と3年度の平均件数を目標値として設定する。</p> <p>算式：(72件+46件) / 2 = 59件</p>			
評価分析	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍に、対面での会話を要するレファレンスに制限をかけた公共図書館が多くあり、R4年度は再開したものの、協力レファレンスの申込みも増えない状況にある。 ・レファレンス業務の取組状況や協力レファレンスに対する認識を把握するため、8月～9月にかけて公共図書館を対象に「レファレンスに関するアンケート」を実施したところ、県立図書館へ協力レファレンスを依頼したところのある館は30%であった。アンケート結果を参考にして、広報や効果的な支援のあり方を考え取り組んでいきたい。 			

③学習支援図書貸出数

指標の説明	学習支援図書セットの貸出状況は、小・中・高等学校における学習活動での図書活用の目安となるため、学習支援図書貸出冊数を指標として設定する。			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	6,500	5,113	78.7%	B
目標値設定の考え方	各学校のニーズを的確に把握することを継続し、令和3年度に達成できなかった目標値と同冊数を今年度の目標とする。			
評価分析	学校でのニーズが把握しきれなかったと考える。引き続き学校でのニーズ把握に努めたい。			

5. 群馬県に関する資料・情報の網羅的収集と保存

①郷土資料受入冊数

指標の説明	群馬県関係資料の県内最終保存館として、図書資料・視聴覚資料を問わず群馬県関連資料を網羅的に収集する。			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	2,300	2,273	98.8%	A
目標値設定の考え方	郷土資料は一般の流通ルートに乗らない非商業出版物が多く、年間の出版点数を把握することは難しいため、直近3年間の収集実績冊数を参考にして、その平均値2,200(百冊未満切上げ)を目標値とする。 (参考実績 R1：2,216冊、R2：2,222冊、R3：2,418冊) 算式： $(2,216冊 + 2,222冊 + 2,418冊) / 3 \div 2,285冊 \Rightarrow 2,300冊$			
評価分析	<ul style="list-style-type: none"> 紙媒体の発行物が減少傾向にある中、おおむね目標を達成することができた。 新聞、出版目録、各種カタログ等から郷土資料の出版情報をつかんで収集を行ったほか、Web古書店を活用し、既刊未所蔵資料の収集に努めた。また行政資料についても、欠号している過年度発行資料を調査し収集した。 県内各種団体から情報収集をし、郷土関連資料の寄贈協力を得た。今後も群馬県関係資料の網羅的な収集に努めたい。 			

②デジタルライブラリーへのアクセス件数

指標の説明	郷土資料や貴重書をデジタル化してインターネット上で公開するデジタルライブラリーにより、所蔵資料の保存と利用の促進を図る。			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	25,000	30,318	121.3%	A
目標値設定の考え方	令和4年3月のデジタルライブラリー県域化によりコンテンツが充実し、アクセス数増加が想定されることから、令和3年度実績を目標値とする。			
評価分析	前年度実績と比較して、アクセス数は大幅に増加した。新型コロナウイルス感染症拡大による非来館型サービスの需要の増加と、令和2年度より実施しているデジタルライブラリー県域化が要因と考えられる。			

6. 情報発信の充実等

①ホームページアクセス件数

指標の説明	ホームページの利活用の増進を図る。 件数はページビュー数（Webページ閲覧数）とする。			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	767,000	926,593	120.8%	A
目標値設定の考え方	ホームページアクセス件数は、平成28年度以降増加傾向にあったが、令和元年度以降は減少傾向にある。一因としてコロナ禍によるイベント減少が考えられるため、警戒度が下がれば改善する可能性がある。令和3年度に達成できなかった目標値と同件数を今年度の目標とする。			
評価分析	ホームページアクセス件数は新型コロナウイルスによる外出自粛による影響か、令和元年度から令和3年度は減少していた。令和4年度は新型コロナウイルスによる外出自粛が鎮静化した影響か、6月以降大幅な増加となった。現在、図書館の本来のニーズに見合うアクセス数となっていると考えられる。			

②メディア掲載等件数

指標の説明	県立図書館で実施する資料展示等の事業やボランティア活動などについて、新聞社等に積極的な情報発信を行い、利用の促進を図る。			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	34	20	58.8%	C
目標値設定の考え方	<p>新型コロナウイルス感染症警戒レベル引き下げにより、5月下旬からイベント等を再開しているが、今後も不透明な要素があるため、通常開催していた令和元年度と開催を制限していた令和2・3年度の3年間の平均値とした。</p> <p>令和元年度53件、令和2年度25件、令和3年度24件 $(53件 + 25件 + 24件) / 3 = 34件$</p>			
評価分析	<p>社会経済活動再開に伴いイベント等を再開し、報道機関へ情報提供を行ったが、他施設においてもイベント等が再開され、より身近な市町村の情報が取り上げられることが多かった。前回の協議会での指摘以降、魅力的なイベントが企画できなかったことが要因の一つであると考えられる。実績の20件に含まない記事として、当館に関わる読者投稿が1件、関連記事が1件あった。</p>			